

江雪（柳宗元）  
こうせつ りゆうそうげん

千山鳥飛ぶこと絶え  
せんざん とり と ぶ こと た 絶え

万径人蹤滅す  
ばんけい じんしよう めつ 滅す

孤舟蓑笠の翁  
こしゆう さりゆう の おう

独り釣る寒江の雪  
ひと つ 釣る かんこう の ゆき

千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅  
孤舟蓑笠翁 獨釣寒江雪

解説 一人の翁が静かに釣糸をたれる姿詠った詩。

語釈 ※江雪Ⅱ川の雪。 ※千山Ⅱ多くの山。

※鳥飛絶Ⅱ飛ぶ鳥の姿が全くない。

※万径Ⅱ多くのこみち。 ※人蹤Ⅱ人の足跡。

※孤舟Ⅱ一そこの舟。 ※蓑笠Ⅱ蓑とかぶり笠。

※寒江Ⅱ寒々とした冬の川。

通釈 多くの山々に飛ぶ鳥の姿もなく、道という道は雪にうずもれて人の足跡も無くなってしまった。雪に閉ざされた中に、一そこの小舟を浮かべて、蓑と笠をつけた老人が寒々とした川で釣り糸をたれている。